



水道トピックス

http://www.city.iruma.saitama.jp/sumai_kurashi/jyosuido/index.html

VOL.11 (平成21年)

発行日：平成21年11月15日

発行：入間市水道部

◆入間市水道ビジョンが策定されました

入間市水道審議会(会長:村上哲司)は、平成20年5月27日に市長から諮問を受けた入間市水道ビジョンの策定について、延べ7回にわたり会議を開催し、本年10月14日に答申いたしました。

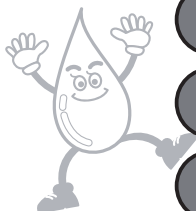
■入間市水道ビジョンの内容

水道ビジョンの策定にあたっては、本市における水道事業の長期的な計画であり、水道事業運営の指針となることから、安全で安定した水道水の供給に重点をおいた基本理念、基本理念を実現するための目標や施策、目標の達成度を把握するための指標や進行管理のしくみ、主な施設整備計画や財政計画などを定めています。今後、この水道ビジョンの考え方に基づいて、水道施設の更新や維持管理を適切に行うとともに、水道料金と企業債のバランスにも考慮し、効率的で安定した事業経営が確保されることを求めています。

<基本理念> 「安全で安心できる命の水をいつでも届けます。
そして、ひと、まち、暮らしを支えます。」

<基本理念を実現するための目標>

基本理念を実現するため、「安全」「安心」「環境」「サービス」「経営」をキーワードにした5つの目標を定めました。



安全	安全な水の安定給水に努めます
安心	災害に強い水道づくりを進めます
環境	環境への負荷の少ない水道を目指します
サービス	使用者に信頼される事業を展開します
経営	効率的で安定した事業経営を確保します



◇主な施設整備計画

今後は、昭和30年代から40年代に建設し更新の時期を迎えた施設を整備し、災害に強い水道事業を目指すことになります。平成22年度から平成31年度までの10年間に予定する主な施設整備内容は以下のとおりです。

- ・老朽化した配水管の更新
- ・扇町屋配水場の耐震化工事
- ・送水管の耐震化
- ・重要幹線となる配水管の耐震化
- ・小谷田配水場の解体
- ・豊岡配水場の改修工事
- ・寺竹配水場の建設
- ・配水区域の再編成に伴う施設整備

◇ 財政計画

◆ 策定にあたっての基本的な考え方

水道ビジョンの財政計画は、主な施設整備計画を基本としていますが、財政計画の策定にあたっては以下の9つの考え方が基本となっています。

- ① 将来人口 平成18年に行政改革長期プラン前期実行計画を策定するために算出した人口推計を使用します。
- ② 年間配水量 平成20年度の年間配水量である約1,750万 m^3 を基本に、将来人口の人口減少割合を乗じます。
- ③ 自己水割合 年間配水量に対する自己水の割合は、平成22、23年度が18%、平成24、25年度が19%、平成26年度以降は毎年度20%とします。
- ④ 有収水量 ここ数年の実績を踏まえ、毎年度、年間配水量の95%を有収水量とします。
- ⑤ 県水単価 県営水道の1 m^3 当たりの単価は、平成22年度は現行の61.78円とし、平成23年度以降は約3.5%の値上げを見込み64円とします。
- ⑥ 水道料金 施設の更新、管路の耐震化及び県営水道の値上げなどの事業運営に必要な財源を確保するため、平成25年度以降は9%値上げを見込みます。
- ⑦ 企業債 施設の更新や管路の耐震化の財源不足に対応するため、扇町屋配水場の耐震化工事が始まる平成23年度から5億円を基本に借入れを見込みます。
- ⑧ 国庫支出金 扇町屋配水場耐震化工事の財源とするため、平成23、24年度に国庫補助金を各3千万円受けます。
- ⑨ 人件費削減 今後の組織見直しに関連して、平成27年度から職員2人を減員し、経費の削減に努めます。

◆ 財政計画の内容

水道ビジョンの10年間ににおける財政計画では、事業収益315億5,459万円、事業費289億3,055万円、資本的収入56億7,870万円、資本的支出83億274万円を見込んでいます。この結果、水道ビジョンの事業費と資本的支出を合わせた財政規模については、372億3,329万円となっています。

収入

◆事業収益		
給水収益（水道料金）	292億7,324万円	78.6%
その他の営業収益	21億3,565万円	5.7%
営業外収益	1億4,570万円	0.4%
◆資本的収入		
企業債	47億5,000万円	12.8%
国庫支出金・負担金等	3億4,860万円	1.0%
加入金	5億8,010万円	1.5%
合 計	372億3,329万円	100.0%

※給水収益が78.6%、次いで企業債が12.8%、その他の営業収益が5.7%となっている。

支出

◆事業費		
原水及び浄水費	117億4,972万円	31.5%
配水費・給水費	56億0,292万円	15.1%
減価償却費	72億4,236万円	19.5%
営業外費用等	43億3,555万円	11.6%
◆資本的支出		
配水管改良費	23億0,032万円	6.2%
配水場改良費	19億4,096万円	5.2%
企業債償還金	26億4,123万円	7.1%
事務費等	14億2,023万円	3.8%
合 計	372億3,329万円	100.0%

※原水及び浄水費が31.5%と最も多く、次いで減価償却費、配水費・給水費となっている。

■ 評価と点検・見直し

この計画の評価や点検及び見直しは、水道部の職員や入間市水道審議会が行い、広報紙などを通じて市民や事業者の皆さんに公表します。

◆管路の耐震化17% 災害に強い水道づくりが必要です!

■水道施設の耐震化

災害時には給水拠点ともなる新しい鍵山浄水場が、平成19年4月に稼働したことにより、災害や渇水時における給水体制が充実しました。また、東金子配水場の耐震化を含めた改修工事が2か年継続事業で終了したことから、平成19年度末における浄水施設耐震率は100%、配水池耐震施設率は約66%、管路の耐震化率は約17%となっています。今後は、扇町屋配水場や管路の耐震化を計画的に進めていく必要があります。

◆施設の耐震化状況

区分	施設名	耐震化状況
浄水施設	鍵山浄水場	平成19年竣工、震度7対応
配水施設	豊岡配水場	昭和63年竣工、震度7対応
〃	東金子配水場	平成20年改修、震度7対応
〃	藤沢配水場	平成12年竣工、震度7対応
ポンプ所	寺竹加圧場	昭和61年竣工、震度7対応
〃	入間台加圧場	平成7年竣工、震度7対応

※国の耐震設計の基本方針に基づいて震度7レベルの地震に耐えられる施設整備を行っています。

◆ペットボトル水「いるまの水」で「安全」「おいしさ」をPR!!

水道部では市内を流れる入間川のさわやかなイメージと市名を重ね合わせ「いるまの水」と名付けたペットボトル水を、5月に製造しました。



目的 安全でおいしい水道水推進運動の一環として製造し、市民に水道水の安全性やおいしさを伝えます。

製造方法 鍵山浄水場で高度浄水処理した水を、タンクローリーで秩父市内の(株)秩父源流水に運び、塩素除去や加熱殺菌処理しペットボトルに詰めました。

製造本数 500mlの丸ペットボトル20,016本

製造委託料 168万円(1本当たりの製造原価は83円93銭)

配布や販売 平成21年度は、市の行事やイベントなどで無料配布いたします。また、希望される方には水道部水道経営課窓口で1箱24本入りを2,100円で販売しています。

鍵山浄水場で取水



高度浄水処理水

塩素除去



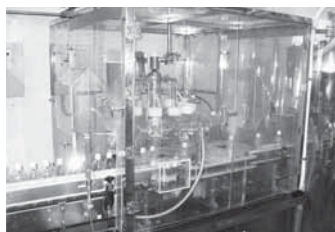
加熱殺菌



〈製造工程〉



ペットボトル水完成



ペットボトルに充填

◆平成20年度水道事業会計の決算報告

当初見込みに比べ、年間給水量が減少したことにより水道料金収入は減額となりましたが、予定した工事等は概ね完了し、効率的な経営に努めた結果、黒字での決算となりました。

○業務量

給水状況については、給水戸数が62,030戸、給水人口が150,585人となり、前年度に比べ戸数で1,097戸、人口で765人増加しました。また、年間給水量は約17,549千 m^3 、このうち水道料金収入の対象となった水量は約16,621千 m^3 、有収率は94.7%になりました。また、鍵山浄水場の自己水確保率は16.5%と前年度に比べ1.2%増加しました。県水受水率は83.5%となっています。

業務量・業務指標の前年度比較

区 分	平成20年度	比較増減
給水戸数	62,030戸	1,097戸
給水人口	150,585人	765人
年間給水量	17,549,467 m^3	△ 150,019 m^3
有収率	94.7%	△ 0.4%
自己水確保率	16.5%	1.2%

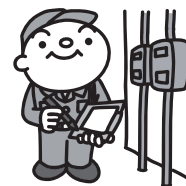
収益的収支の前年度比較

(単位:円、%・税込)

区 分	平成20年度		比較増減
	金額	構成比	
事業収益	3,004,532,337	100.00	△ 121,487,999
営業収益	2,989,605,393	99.50	△ 98,446,968
(うち水道料金)	(2,787,751,905)	(92.78)	(48,035,896)
営業外収益	14,926,944	0.50	1,153,624
特別利益	0	—	△ 24,194,655
事業費	2,684,237,344	100.00	△ 87,682,997
営業費用	2,500,239,102	93.14	△ 86,801,009
営業外費用	181,930,134	6.78	△ 404,104
特別損失	2,068,108	0.08	△ 477,884

○収益的収支

事業収益の主なものは、水道料金です。事業費の主なものは、鍵山浄水場等管理業務、県水受水費、漏水調査費、漏水修理費、扇町屋配水場ポンプ修繕費、量水器検針等業務費、企業債利息となっています。事業収益から事業費を差し引いた税抜き後の純利益は2億9,319万295円となりました。



資本的収支の前年度比較

(単位:円、%・税込)

区 分	平成20年度		比較増減
	金額	構成比	
資本的収入	153,028,452	100.00	△ 47,248,450
出資金	57,025,000	37.26	11,658,104
負担金	35,479,352	23.19	△ 27,296,936
加入金	60,421,200	39.48	△ 31,630,200
固定資産売却代金	102,900	0.07	20,582
資本的支出	662,987,050	100.00	△ 1,093,496,485
建設改良費	441,252,050	66.56	△ 825,036,762
企業債償還金	221,735,000	33.44	△ 268,459,723

○資本的収支

資本的収入の主なものは、水道利用加入金です。資本的支出の主なものは、武蔵台団地や八津池団地内の配水管布設替工事をはじめ、下水道事業や土地区画整理事業などに伴う配水管布設工事、企業債の償還金です。資本的収入額が資本的支出額に不足する4億999万1,612円につきましては、減債積立金や過年度分損益勘定留保資金などで補てんをいたしました。

■編集後記

お伝えしたように、平成22年度から平成31年度までの水道事業の指針が示されたことにより、私たち水道事業に携わる者にとって、目指すべき将来像とその実現のための方策が明確になりました。

2月には今後の施設整備計画や事業運営の方向性についてご理解をいただくため、各地区で水道ビジョンの説明会を予定しております。日程につきましては広報いるま1月1日号をご覧ください。

入間市の水道事業は、これからも安全で安定した給水、効率的な運営を進めてまいります。ご意見、ご要望がございましたら、遠慮なくお寄せください。

水道に関する情報は市公式ホームページ及び水道部ホームページをご覧ください。